

栄クラブ第 37 期HP

*第 37 期役員

*9 月例会

猛暑に続くたび重なる災害に見舞われた夏休みも過ぎ、栄クラブは 37 期を迎えました。

ITC-J となって初めての期のスタートです。

開会宣言の次にインスピレーションが行われ、とても良い感触を受けました。ITC 宣誓を行わない分 従来よりもこの場所でインスピレーションの重要性が感じられる冒頭部分です。行う側、聴く側 共に心して臨みたいと思います。ビジネスではクラブ予算の審議があり、会員の 率直な意見も出され話し合いが持たれた事は良かった。常任委員会報告に続いて、会長が議会法規役員と CLO にも発言を促され役職を良く認識された発言で、ボードの良い雰囲気伝わってきました。

ビジネスは時間を守る、事前の準備等々を心がけ、和やかな中にも心地よい緊張感の持てるものであって欲しいと思います。

プログラムは「心に留まった新聞記事」です。気になった、感動した、考えさせられたなどの新聞記事を事前に準備して発表していただきました。格調高いものから、身近なものまで多岐にわたり

それぞれ興味を引く内容でしたが、後の方の発表者は時間短縮のため、フロアからの質問、意見を述べるコーナーが省かれてしまった事は残念でした。

またの機会に取り上げても良いプログラムであったと思います。 K

*10 月例会

今月のプログラムは二部に分かれていました。

第一部は「今話題の本を読む」として、辻村深月の「かがみの孤城」と林真理子の「我らがパラダイス」を課題本としました。あらすじの紹介、感想発表、全員でのディスカッションを行いました。

「かがみの孤城」ではじぶんの周りに社会に適應できない子供がいたとき、わたしたちはどう接し、どう助力していけるかという観点でディスカッションを行いました。

「我らがパラダイス」では体験談も含め、介護の問題に焦点を当て、話し合いました。介護は身近な問題だけに話しがはずみ、まだまだ話たりないという雰囲気でした。

第二部では来年 4 月に開催予定の野外例会について会員の忌憚のない意見を聞く機会となりました。

会員の気持ちに添う野外例会になるように、充実した野外例会になるようにと願い、会員の要望を少しでも多く引き出せるように資料を用意して話し合いました。まだまだ十分な資料ではなかったかと思いますが、実施月までまだ時間があるので、より多くの情報を会員に提供し、皆の心に残る野外例会になるようにと願っています。 H



*11月例会

今月の例会は持ち出し例会で、20年間多くの名古屋人に愛されたシンナゴヤミュージカル劇場から移転し、2016年10月に名駅南地区に新しく建設された名古屋四季劇場に出かけました。

ビジネスは四季劇場 北隣のラソール ガーデン名古屋で行い、プログラムは世界的文豪ヴィクトル・ユゴーの代表作『Notre-Dame de Paris』に想を得た作品ミュージカル「ノートルダムの鐘」を鑑賞しました。作品の内容は皆さまご存知と思いますが、15世紀末、ノートルダム大聖堂の鐘楼に住む男カジモド、その彼をひそかに世話する大聖堂聖職者フロロー、同警備隊長フィーバス、そしてその3人が愛するジプシー娘エスメラルダが綾なす愛の物語。

人間誰もが抱える「明」と「暗」を繊細に描かれ、美しいに人間ドラマに感動させられます。

また、アラン・メンケン&スティーブン・シュワルツが織りなす名曲の数々は濃厚なドラマを一層盛り上げていました。カジモドの歌う「陽ざしの中へ」エスメラルダの「神よ 弱きものを救いたまえ」

フロローの「地獄の炎」エスメラルダとフィーバスの「いつか」など壮大で美しく圧倒されました。

本当に充実したひと時を過ごすことができました。 H

*12月例会

12月例会は「私のとっておき クリスマスバージョン」と題したスピーチを、全員参加で行いました。

一人5分以内、メンバーはそれぞれのエピソードを披露するなか、教会でクリスマスミサに参加した思い出、華やかにクリスマスツリーを飾り付けた家庭で楽しむクリスマス、老人ホームをコーラスで訪問、母親と息子、祖母と孫とのホットな心の交流、大切な美術書、お孫さんに「サンタさん 本当にいるの?」と問われれば誰も戸惑いますが、「目に見えなくても、信じる心、他人を愛する心にサンタさんはいます」の紹介に納得です。

皆さんのとっておきの話は、それぞれ個性にあふれ、珠玉の輝きがありました。

同時進行でビンゴゲームも行われ、各自500円で用意した大小さまざまな品物がテーブルに並び、ビンゴで当たった人が商品を選ぶ様子は童心に帰ったようでほほえましい光景です。

その後、スピーチの余韻に浸りながら、紅茶やロールケーキ、チョコレートなどでひと時を楽しみ、栄クラブのクリスマスは終了しました。 K

*1月例会

栄クラブ員10名にゲスト25名をお迎えし、話のプロである元名古屋テレビアナウンサーの浅沼道郎氏を招いて45分講演、45分ワークショップ(早口言葉)をしていただきました。

話し方の奥義である7つの技をソフトで深みのある声で伝授していただきました。7つの技とは①スピード(ゆっくり意識を持って)②リズム(緩急、強弱と間)③活舌(あいうえおの口の形、平仮名を思い浮かべる)④パターンを暗記 ⑤ボキャブラリーを増やす ⑥ユーモアを交える ⑦表現力、レトリック(修辞学)です。いろいろなアナウンサーの喋りをさまざまな角度から披露していただきとても参考になりました。

スピーチを学んでいる私達ITC-J会員にとっても一般ゲストの方々にとっても非常に参考になる話でとても有意義な時間となりました。 Y<

*2月例会

2年に一度、スピーカーは勿論の事、会員全員はともにお役に携わる緊張一杯のスピーチコンテストです。今年の論題は、「つなぐ」。スピーカーのKさんは、論題を「あなたは日本に、何を望みますか」としてスピーチを用意されました。淀みなく澄んだ声で語られるスピーチに、会員全員がうっとりとして

引き込まれ聞くことができました。

それはまさにHさんが例会のために用意されたもう一つのインスピレーションの内容そのものでした。「年相応にとか、いい歳をしてとか、つまらない言葉があなたを縛る。あなたは耳を貸す必要はない。他の誰でもない『私』を楽しむ。そんな2019年があなたは必要なのだから。年齢を脱ぐ。冒険を着る。そしてつぶやく。わたしは、私」。そんな内容の素晴らしいスピーチに会員一同惜しめない拍手を送りました。Kさん本当にお疲れさまでした。

スピーチの緊張が解けた後のワークショップでは4月に予定されている野外例会について皆でスピーチを織りまぜての計画づくりでした。楽しい野外例会を予感させるプログラムとなりました。 T.Y

*3月例会

「机上の旅をしませんか？」のプログラムでした。

過去、現在、未来の旅を机上で楽しんでみませんか？という内容で、旅のきっかけや目的、印象に残っている所、旅先でのハプニング、ぜひこれから行ってみたいと思っている所などを、パワーポイント、写真、美術館の本、お土産品等を見せて、それぞれの思い出を折り込んでのスピーチはとても効果的でした。

短時間での「机上の旅」でしたが、多くの場所を訪れることが出来た楽しいプログラムでした。 N

*4月例会

何度も会員で意見を交わし、計画を練った野外例会「金沢」、自由参加の1日目、澄み切った青空の下、まず訪れたのは「21世紀美術館」敷地内に置かれた数々のオブジェの斬新さ、スイミングプール等は日常的な感覚から解き放された意外性の面白さ、更に企画展「アジアの風景」は、アーティストがそれぞれの感覚と手法でメッセージを発信しており、現代アートの多様性を楽しみました。

ここで二派に分かれ、私達は「鈴木大拙館」へ

静謐な空間と周りの自然が溶け込んだシンプルな庭で彼の無の心に触れ、「兼六園」では遅咲きの桜の華やかさと見事な枝ぶりの松に感嘆しながら散策、心浮き立つ時間でした。

加賀友禅工房見学のグループも素晴らしい友禅の技法を間近で見ることができ、楽しい時間を過ごしたようでした。



例会当日は、ビジネスを終え、「安江金箔工芸館」を訪れました。伝統の金箔職人の磨き上げた技と気の遠くなるようなプロセスは、想像を超えたものでした。そして「ひがし茶屋街」を駆け足でまわったのち、無事岐路につきました。

歴史に培われた文化や職人の技・伝統を継承し守り続ける一方で新しさを取り入れていく柔軟さ、金沢の魅力を味わい尽くすには、あまりに短い時間ではありましたが、その一端を体感した野外例会でした。そして、共に過ごした楽しく充実した時間は、仲間の「絆」をより一層深いものにしたと感じています。

Y.O.





***5月例会 ディスカッション「メディアについて考える」**

・令和元年、最初のプログラムはメディアを取り上げました。

昨今の数多い「メディア」によって、私達の日常生活は賑やかな話題に囲まれて、騒がしすぎる感もあります。そこで、代表的な「新聞」「テレビ」「インターネット」の功罪について、それぞれ二名ずつに述べてもらい、全員で討議しました。話題や問題になっている事件などにも踏み込んで討議しました。

この三種のメディアを見直すことで、その「功」と「罪」をあらためて認識し、多くの活発な意見で、より意識の高いプログラムの場となりました。メディア漬けになりがちな私達の、メディアとの付き合い方を考える良い機会でもあったようです。

F.S

*6 月例会

今年度最後の例会は、インスタレーションもあり、プログラムの時間はやや短めでしたら、盛りだくさんで充実したものでした。

Yさんによる「音読の効能」では、声の老化は嚥下力の低下にもつながること、声、咽喉、肺の老化がリンクしていることを教えてくれました。

また、ただレクチャーするだけでなく、チェックテストを用意し、発声能力に問題ないか、のど年齢肺年齢はどのくらいかを調べ、興味深くしっかり聞けました。その後、クラブ員全員が与えられた課題を音読しました。

課題：

谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 与謝野晶子「みだれ髪」 萩原朔太郎「月に吠える」 宮沢賢治「ツェねずみ」 土居晩翠「夏夜」 河竹黙阿弥「弁天娘女男白波」 他
最後に清少納言の「枕草子」を全員で群読しました。

H. H